

NEWSLETTER

ISSN 2186-9812

宮島水族館（広島県）巡検

香川大学教育学部・人間発達環境課程・人間環境教育コース4年 金丸 志織

Email: s15l508@stu.kagawa-u.ac.jp

2018年7月26日、広島県宮島にある宮島水族館を訪れた。西日本豪雨の直後だったが、幸い宮島では少々土砂崩れが起きたものの被害は小さく、世界遺産・厳島神社にも特に損傷はなかったと現地の人は仰っていた。朝10時ごろから厳島神社、大願寺に参詣した後、大願寺の裏にある水族館へ向かった。

宮島水族館は瀬戸内海及び周辺の環境に生息する水族を中心に350種13,000点以上展示している。特にスナメリ、タチウオの展示は全国的に珍しく、また広島ならではの力キいかだ展示は圧巻だ。入ってすぐには、厳島神社周辺の干潟を再現した水槽、そしてアマモの展示がある。アマモ飼育には光が必要なため、水槽はフロア内でとても明るく、生命のゆりかごであるアマモの通り生き生きとしていた。黒いゴンズイの群れが照明とコントラストを成しており視覚的にも見応えがあった（写真1）。



写真1: アマモ水槽

2階にのぼってすぐの力キいかだ展示は1階まで続いており迫力満点だ。2階では、いかだの周りを回遊する魚たちが見られる。力キの生態を説明したパネルなどの他、水面には箱メガネも備え付けられており、子どもたちが夢中で水中の生物を見ていた。

ここでペンギンふれあいイベントのアナウンスが流れたため、1階のペンギン水槽前に行く。ここでは1人ずつフンボルトペンギンの背中に触れることができる。特に時間制限はなく、私は20～30秒撫でていたかもしれない。ペンギンは2羽いたが、私が触ったほうのペンギンはバックヤードから現れてから終始飼育員の手をついたり噛んだりしていた。聞くと、彼はこうすると気分が落ち着くらしい（写真2）。

2階に戻り、廿日市市の里山風景を再現したゾーンへ。ここにはオイカワやニゴイやカメの他、カブトガニやカブトムシの幼虫もいた。水槽は横幅または高さが大きく、どれも生き物の数に対してかなり余裕がある大きさであった。（サンショウウオがいる水槽は高さ120cmほどで、おそらくこのフロアで一番高かった）また流木、岩、草木を入れた水槽と里山風景を模した背景がうまくマッチングしており、美しい景観を再現していた。



写真2：飼育員の手をつつくペンギン

宮島水族館の展示手法の1つとして、スマホのアプリを用いたものがある。これは、まず水槽に貼られたシールに書いてあるQRコードから専用アプリをインストールし、次にそのアプリで同じシールに描かれたイラストを撮影するというものだ。すると画面上に、その水槽の生き物に関する飼育員の解説動画が流れる。これは全ての水槽に貼られているわけではなく、カブトガニやペンギン、アザラシ水槽など数か所のみであった。動画は1〜2分と短い、その分理解しやすいし、水槽横の解説を読むよりもすんなりと頭に入ってきたので良い工夫だと感じた（写真3）。



写真3：動画が見られるシール

次の「いやしの海」では、1階〜2階まで突き抜ける宮島水族館最大の水槽で多種多様の生き物が自由に泳いでいた。マンタやエイがよくガラス面に寄って来たりし、子どもから大人まで楽しませていた（写真4、写真5）。

順路通り1階に降りると、プール内を元気にびゅんびゅん泳ぐ2頭のスナメリと、夜行性・発光性・深海に暮らす生き物のコーナーがある。スナメリ水槽と深海コーナーのタチウオ水槽はどちらも（海藻などが無い）生き物のみの展示だ。前者ではとてもワクワクした気分になった一方、後者では暗い中神秘的な面持ちのタチウオがゆっくり泳いでおり、神秘的な気持ちになった。スナメリ水槽の近くには、以前宮島水族館で飼育されていたオスのスナメリの骨格標本があった。5本の指の骨や陸上生物だった名残である足の骨がよく分かり、生きているスナメリをじっくり観察するきっかけにもなった（写真6）。



写真4：「いやしの海」の2階部分



写真5：「いやしの海」の1階岩の隙間から

この先には、2階で見たカキいかだの水中部分が展示されている。水族館のWebページの「水族館だより」によると、ここのカキ（垂下連）は実際に海に吊るされている約10mものを半分に切って展示し、冬に入れ替えているそうだ（写真7）。



写真6：スナメリ標本

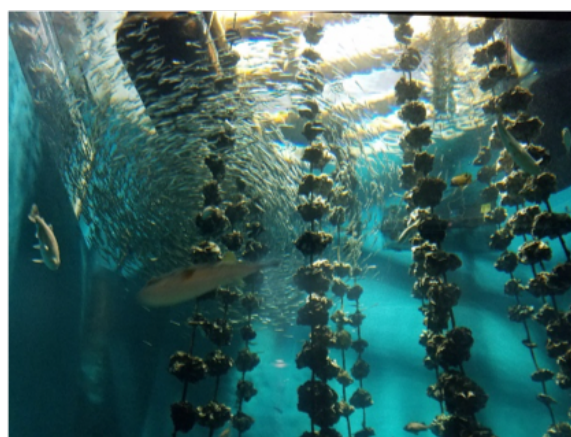


写真7：1階から見上げたカキ水槽

次の「生きもののからだと暮らし」ゾーンでは、多種多様の生き物がテーマごと（「目玉もよう」など）に多く展示されていた。ピラニアやチンアナゴ、色鮮やかなサンゴ礁などがあり、一つ一つの水槽に独特な世界観があらわれていた。注目すべきはテッポウウオ展示だ。このゾーンの一番最後、他の生き物より大きめの水槽に入れられており、下三分の一は水、上三分の二はマングローブが生い茂っている。私は時間の都合上見るができなかったが、テッポウウオのシューティングパフォーマンスが毎日おこなわれているそうだ（写真8）。

少し広い空間に出ると、タッチプールとその先に天井プールで泳ぎまわるペンギンを見ることができる。タッチプールにはナマコとヒトデがあり、生き物の触り方を説明するビデオが流れていた。ストレスがかかるため生き物を持ち上げてはいけない、と注意する水族館もあるが、宮島水族館では「そっと生き物を持ち上げて、裏側を見てみよう」と推奨していた。ヒトデをゆっくり

り持ち上げると、管足がうじゃうじゃ動いており「生きた動物を触っている」という高揚感に駆られた。プールはある程度広さがあり、水に足を入れて遠くにいる生き物に触ることも可能だった。またこの場所は「せとうち研究所」というイベントにも用いられており、3年ほど前に私が訪れた際は、ヘビについての解説イベントをおこなっていた。



写真8：テッポウウオ水槽

宮島水族館は「いやし」「ふれあい」を基本理念としている。館内は大変きれいで、各ゾーンのテーマにそれぞれマッチした展示をしており、またタッチイベントやパフォーマンスで生き物と触れ合うこともできた。水族館を利用した教育的制度も充実している。宮島水族館は教育施設としても、レジャー施設としても大変良い水族館だと私は思う。広島に行った際にはぜひ宮島水族館を訪問してはどうだろうか。

なお、その他気になった展示の写真も以下に掲載している。生き物の体表を日常品で再現したもの（写真9）、またオタマジャクシや世界のカエルグッズがあった企画展示の「ガマコレ」（写真10）、広島東洋カープ愛が感じられる、コラボ展示（写真11）だ。どれも凝っており大変楽しむことができた。



写真9：生き物の体表を再現

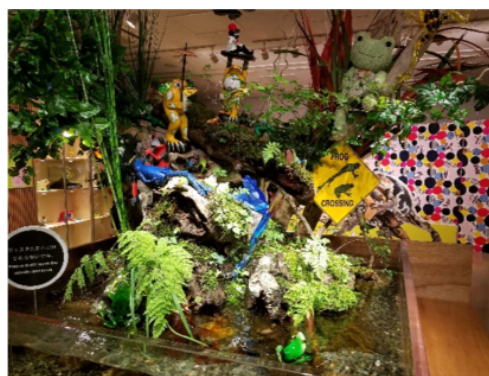


写真10：「ガマコレ」



写真11：カープをモチーフにした水槽

参考：宮島水族館「水族館だより カキいかだ（2016.12.16）」（2018.8.4最終閲覧）

<http://www.miyajima-aqua.jp/letter/work/1167.html>

※写真は全て筆者撮影